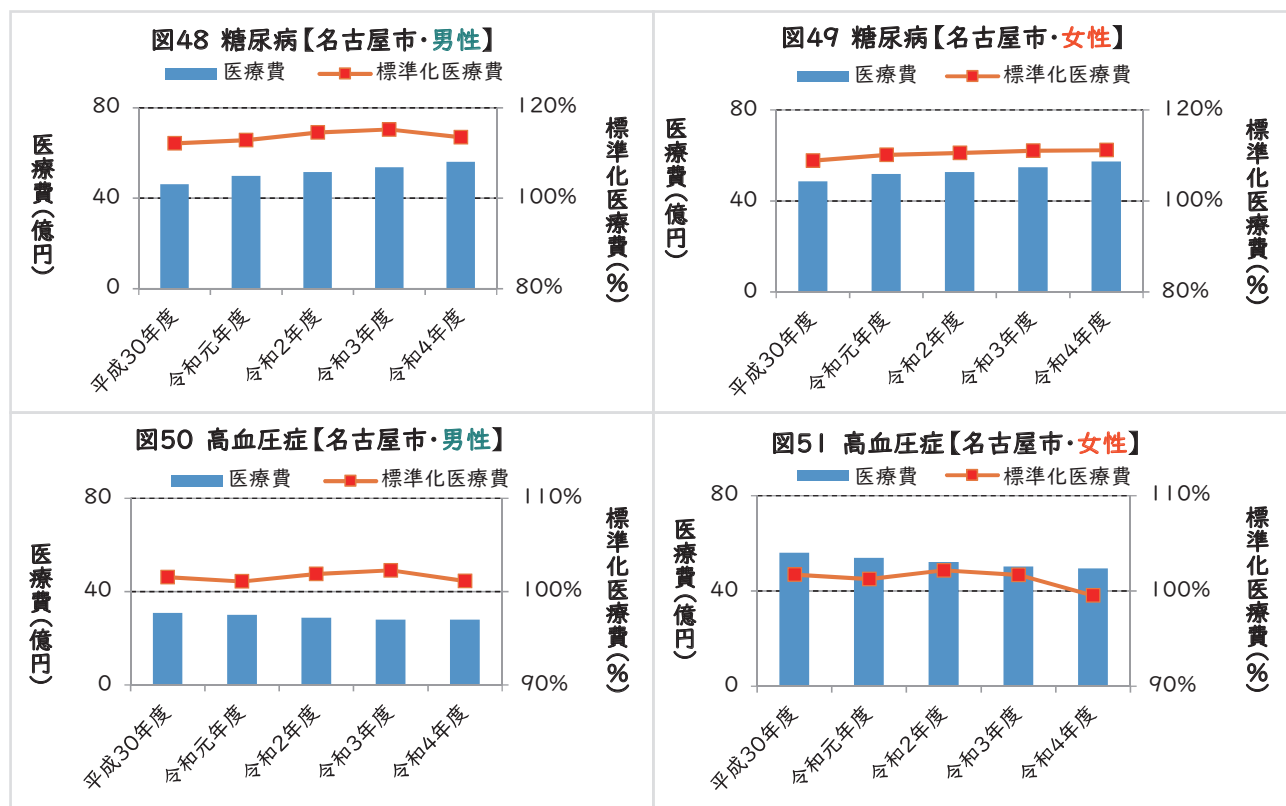
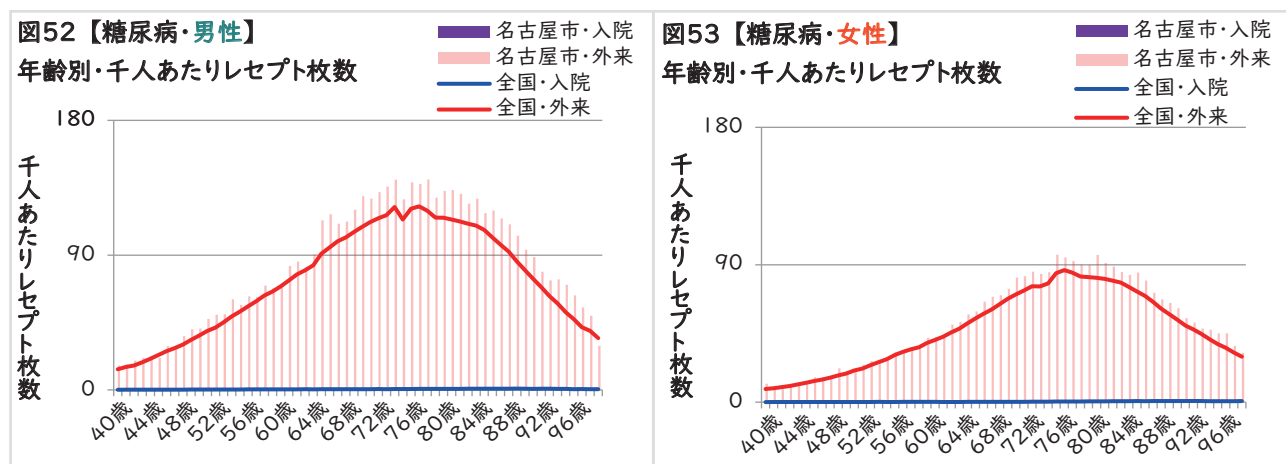


過去5年間の名古屋市高齢者の糖尿病の医療費は増加傾向にあり、標準化医療費も令和4（2022）年度の男性の値を除き基本的には上昇しています。一方、高血圧症の医療費は若干ですが男女とも徐々に減少しており、標準化医療費も女性は減少傾向を認めます（図48～51）。



出典：国保データベース（KDB）システム

脳梗塞、狭心症は40歳代よりレセプト枚数の増加が始まりますが（35ページ図68～71参照）、糖尿病・高血圧症・脂質異常症の外来レセプト増加はそれより早期に開始しています（図52～57）。外来レセプト枚数のピークは脳梗塞、狭心症より早く70歳代半ばで迎え、その後の減少も脳梗塞、狭心症より早く開始します。糖尿病の外来レセプト枚数は男性が女性より多く、脂質異常症は女性が男性より多数です。高血圧症の外来レセプト枚数は男女で差を認めません。女性の脂質異常症は50歳前後から急に増加しており、更年期における女性ホルモン低下の影響と考えられます。



出典：国保データベース（KDB）システム

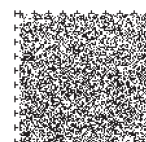


図54 【高血圧症・男性】
年齢別・千人あたりレセプト枚数

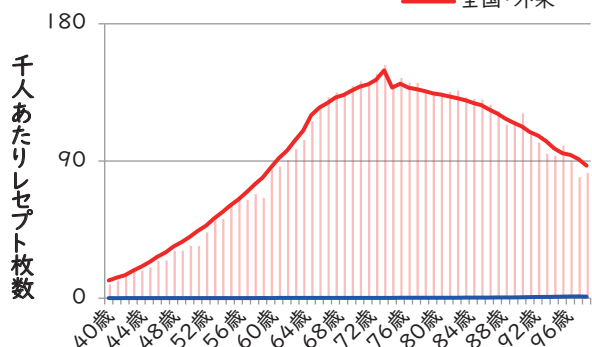


図55 【高血圧症・女性】
年齢別・千人あたりレセプト枚数

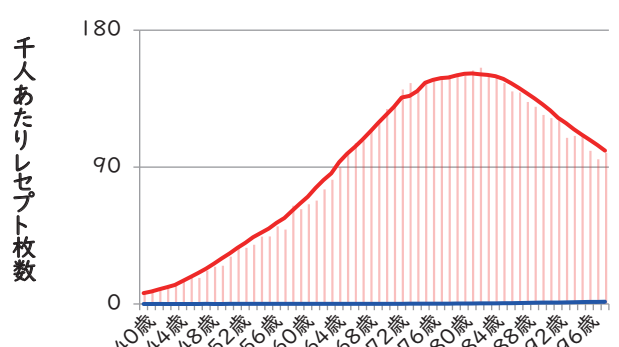


図56 【脂質異常症・男性】
年齢別・千人あたりレセプト枚数

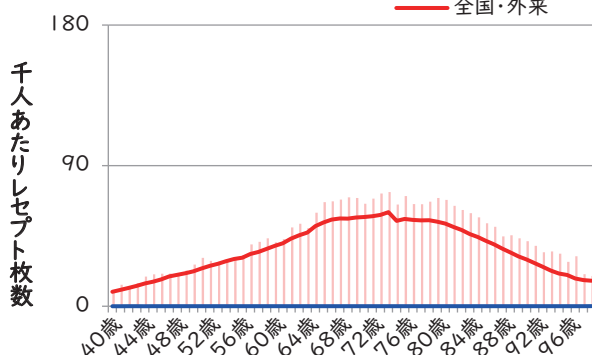
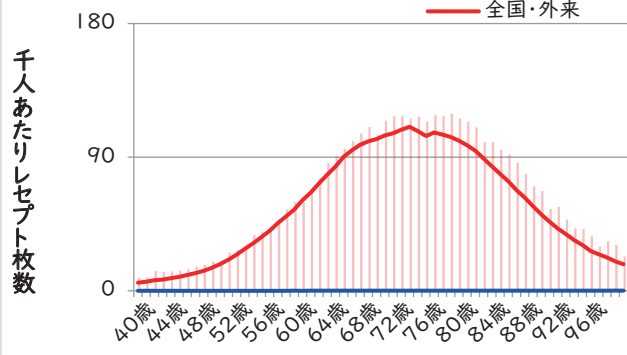


図57 【脂質異常症・女性】
年齢別・千人あたりレセプト枚数



出典：国保データベース (KDB) システム

(2) 循環器系疾患 (心疾患・脳血管疾患)

循環器系疾患は、脳に関わる脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血と心臓・大血管に関わる狭心症・心筋梗塞・大動脈瘤を分析しました (図58、59)。医療費・レセプト枚数ともに脳梗塞・狭心症が高くなっています。

図58 名古屋市 後期高齢者 医療費状況 I
【循環器系関連・男性】

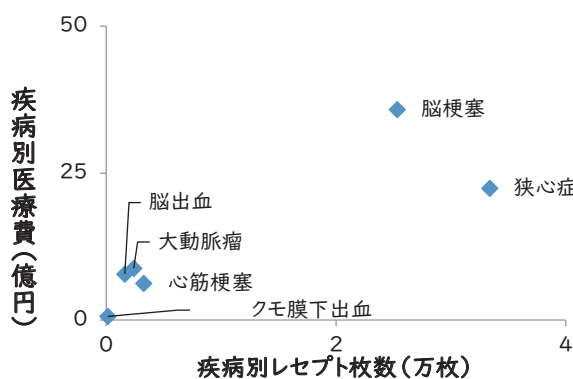
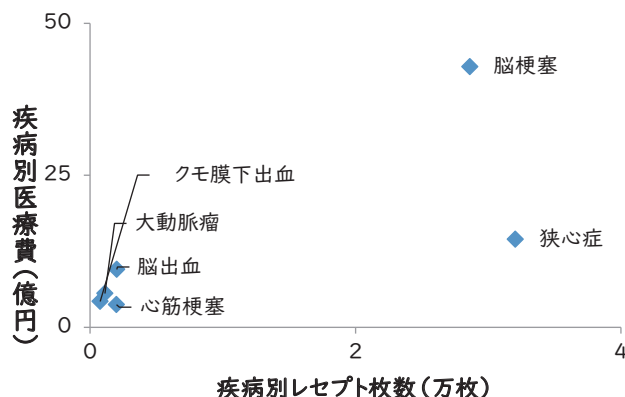
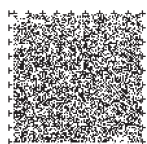


図59 名古屋市 後期高齢者 医療費状況 I
【循環器系関連・女性】

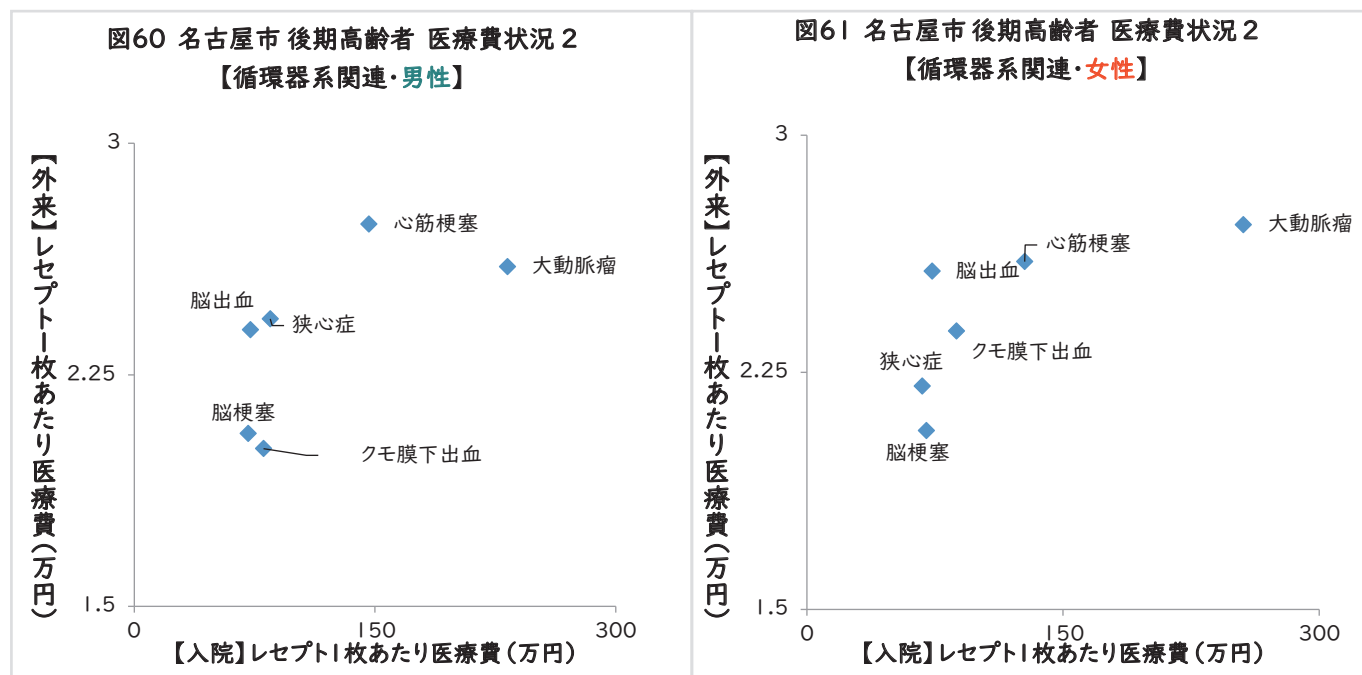


出典：国保データベース (KDB) システム



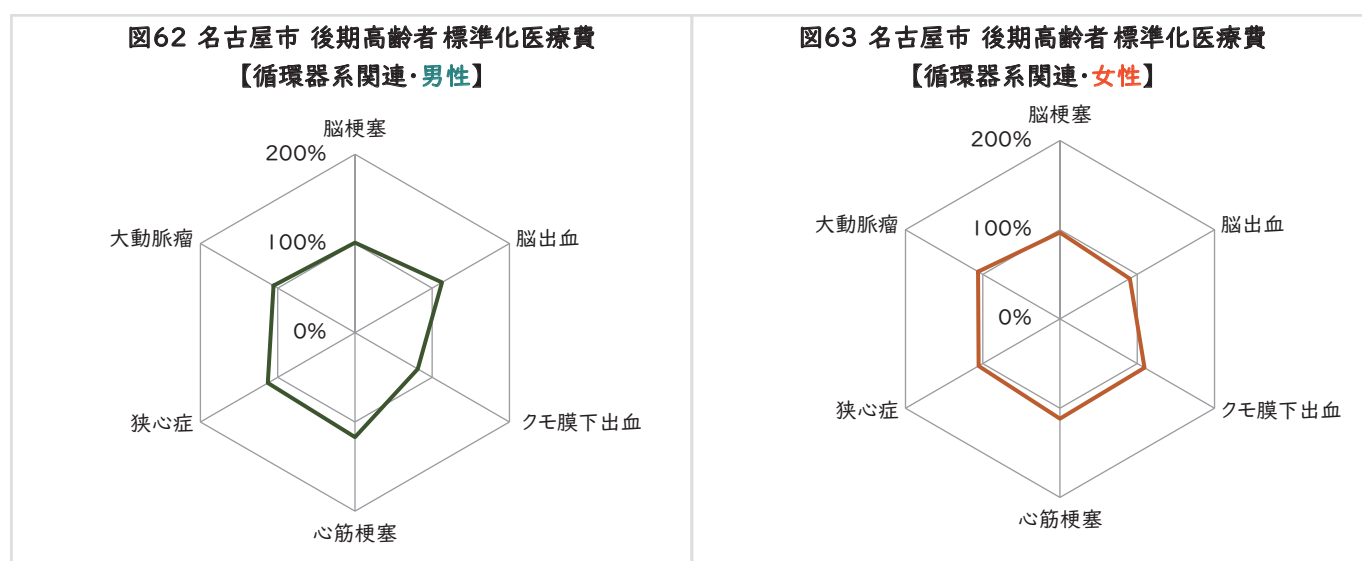
入院レセプト1枚あたりの医療費は、手術や治療で使用する医療機器、集中治療管理などのため、大動脈瘤・心筋梗塞が高額となります。

入院、外来ともにレセプト1枚あたりの医療費に明らかな男女差を認めません(図60、61)。

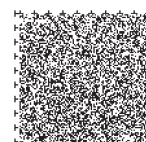


出典：国保データベース (KDB) システム

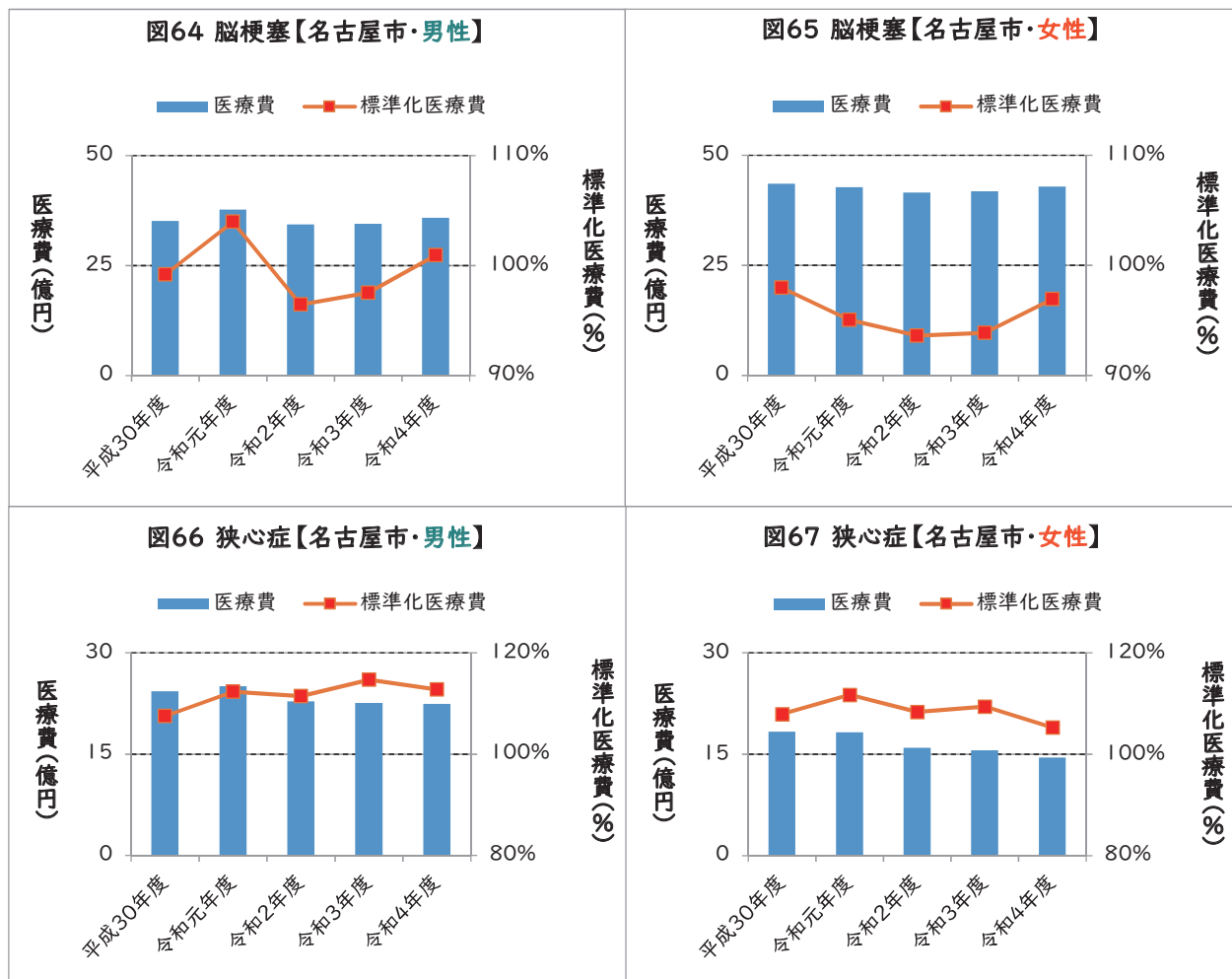
標準化医療費は、狭心症では男性113%、女性105%、心筋梗塞では男性117%、女性112%と冠動脈疾患は全国を上回っていますが、脳梗塞は男性101%、女性97%と全国と同レベルです(図62、63)。なお、クモ膜下出血の標準化医療費は男女間で大きな差が発生していますが、脳血管障害で最もレセプト件数が多い脳梗塞と比べると、クモ膜下出血のレセプト件数は男女ともに少なく、標準化医療費の値が変動する可能性が大きいと予想されます。



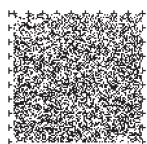
出典：国保データベース (KDB) システム



過去5年間、脳梗塞の医療費は年度により若干の増減を認める程度です。男性の標準化医療費は100%±5%程度の変動、女性では100%以下ですが令和2(2020)年度から令和4(2022)年度にかけて増加傾向にあります。狭心症の医療費は減少しています。標準化医療費は男女とも全国より高値ですが、男性は変化なく、女性では近年減少傾向にあります(図64~67)。

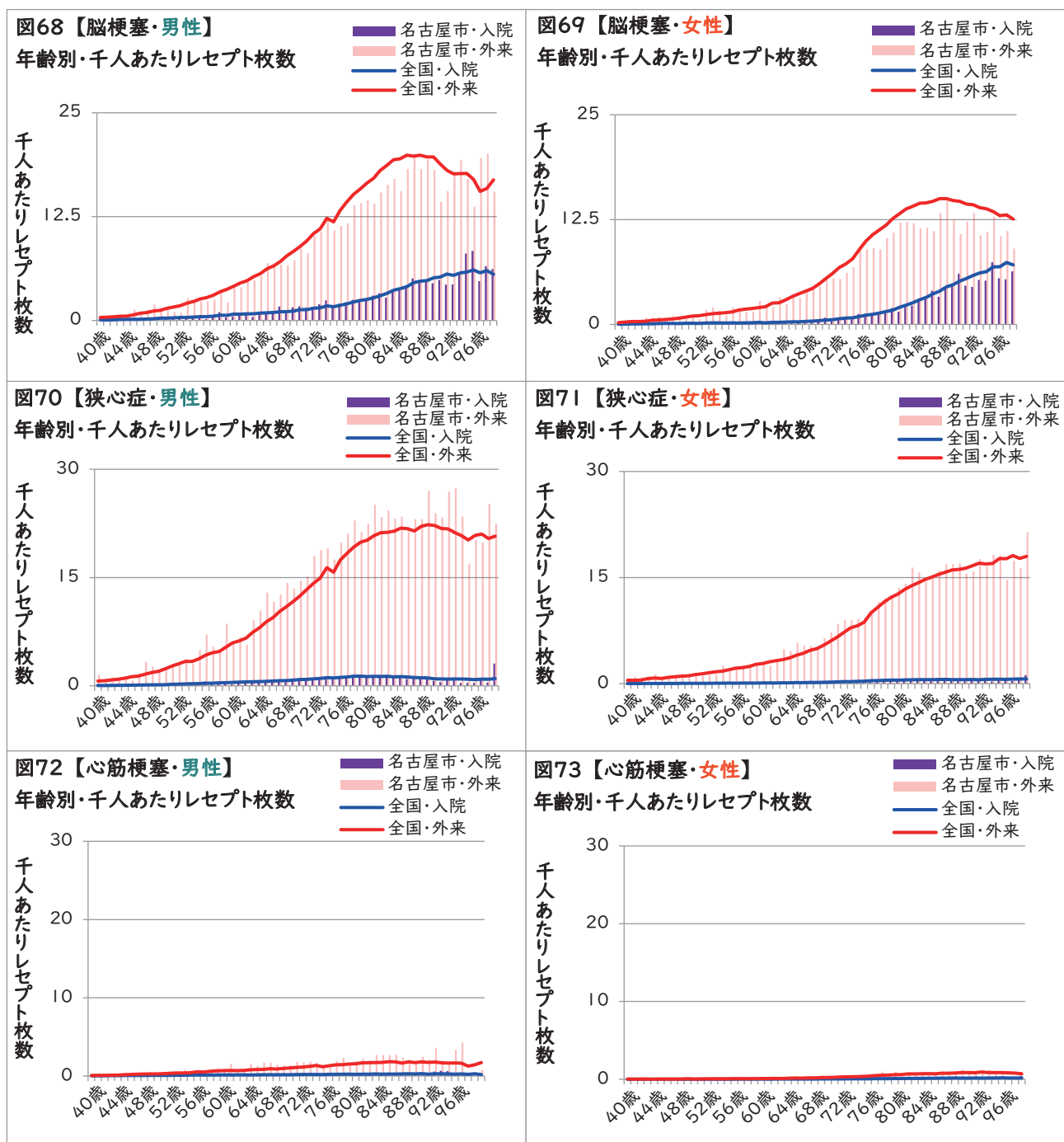


出典:国保データベース(KDB)システム



脳梗塞、狭心症ともに外来レセプト枚数は40歳代から80歳代前半まで増加を続け、女性は男性に比べ増加は緩やかです。入院レセプト枚数は、脳梗塞で年齢とともに増加していますが、狭心症・心筋梗塞では脳梗塞ほどの増加はありません。脳梗塞は狭心症・心筋梗塞と比較して後遺症のためのリハビリや合併症のための入院が必要な場合が多くなるのが原因と考えられます(図68～73)。

狭心症のレセプト枚数は、心筋梗塞のレセプト枚数に比べると、入院・外来ともに多くなっています(図70～73)。



出典:国保データベース(KDB)システム

